

京都国立博物館
だより

二〇一九年
七・八・九月号

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2019 July to September, vol. 203



特集展示
新収品展

特集展示

赤ってじつは
どんな色？

― ICOM 京都大会開催記念
特別企画 ―

京博寄託の名宝

― 美を守り、美を伝える ―



特集展示

新収品展

7月2日(火)～8月4日(日)

【平成知新館1F—3—6】

博物館の事業のひとつは収蔵作品を新たに増やすということです。博物館では個人の方からの篤志による貴重な作品のご寄贈をつねに受け入れています。また博物館で展示するに相応しい内容をもった重要な作品を計画的に購入しています。

今回の「新収品展」では、二〇一七～一八年にかけて京都国立博物館が新たに収蔵した絵画・書跡・彫刻・工芸・考古・歴史資料などのうち約七十件を選んで展示します。そのうちのいくつかをご紹介します。



花鳥図 如寄筆 京都国立博物館 (写真1)

「花鳥図」(写真1)は室町時代の画家如寄(じょき)の作品です。彼は十五世紀末に中国に渡り、明の画風を学びました。この「花鳥図」は十五～十六世紀にまたがる頃の作品です。繊細な羽毛の表現やいきいきとした小鳥の姿勢が見所です。



鼠志野草文鉢 京都国立博物館 (写真2)

「鼠志野草文鉢」(写真2)は桃山時代、十七世紀の作品で、灰色の器の見込みの中に精緻な筆で草文様が表現されています。絵画性の強い表現とその造形の自由さは桃山時代の陶磁器の特徴をよく示しています。

重要文化財「太刀 銘国吉」(写真3)

「太刀 銘国吉」(写真3)は、鎌倉時代、十三世紀の京都を代表する刀工集団、栗田口派・国吉の手によるものです。国吉独自の作風をいかななく発揮した名品です。



重要文化財 太刀 銘国吉 京都国立博物館 (写真3)



流雲文方格神人霊獣画像鏡 京都国立博物館 (写真4)

写真4の銅鏡は、中国・後漢時代、二世紀頃の作品で、正式には「流雲文方格神人霊獣画像鏡」という長い名前です。神仙

ある「西王母」と「東王公」、騎馬姿の仙人、霊獣である「白虎」が半肉彫風に表わされていて、後漢時代の世界観を今に知らせてくれます。「夕顔時絵象嵌料紙・硯箱」(写真5)は江戸時代、十八世紀の漆芸家・小川破笠(はりつ)の作品とされるもの。貝や鼈甲・陶器や象牙などの材料でスズムシやカマキリ・イナゴ・キリギリス・カブトムシなどが夕顔の葉にとまった様子を生命感豊かに表現しており、魅力的な作品となっています。

さまざまな分野の名品をぜひご覧ください。

(宮川禎二)



夕顔時絵象嵌料紙・硯箱のうち料紙箱の蓋表 笠翁銘 寄贈・京都国立博物館 (写真5)

ICOM 京都大会開催記念
特別企画

京博寄託の名宝

—美を守り、美を伝える—

8月14日(水)～9月16日(月・祝) 【平成知新館】

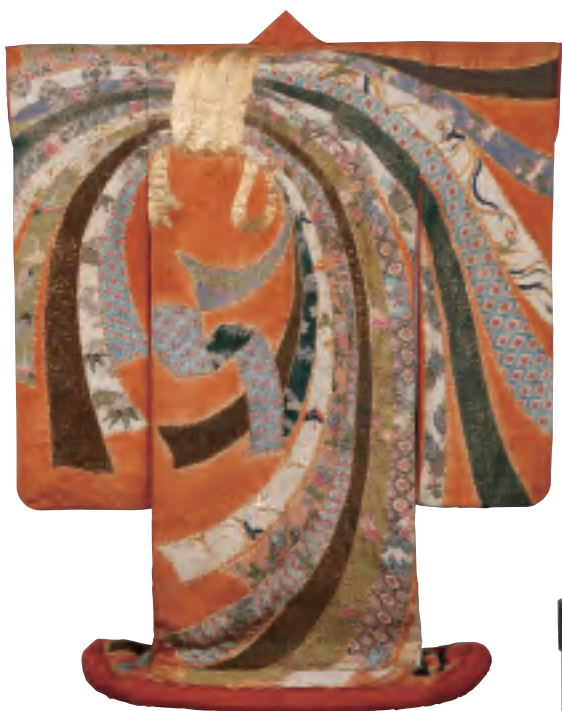
*9月2日(月)は開館・9月7日(土)は無料観覧日

令和元年(二〇一九) 九月一日から七日まで、日本で初めて ICOM(アイコム) こと国際博物館会議の世界大会が、京都の地で開催されます。京都国立博物館(京博)ではこれを記念して、特別企画「京博寄託の名宝—美を守り、美を伝える—」と題した展覧会を開催いたします。

ICOM は International Council of Museums (国際博物館会議) の略称で、世界一四〇以上の国と地域の博物館が加盟する国際的な非政府機関です。国連の専門機関である UNESCO(ユネスコ、国際連合教育科学文化機関)と協力関係にあり、三年に一度、傘下のすべての委員会が一堂に会する大会が開かれます。平成二十八年(二〇一六)のミラノ大会に続いて今回は京都・宝池の国立京都国際会館を主会場にして、「文化をつなぐミュージアム—伝統を未来へ—」をテーマに今日の博物館を取り巻く、さまざまな課題が討論される予定です。

ICOM 大会のテーマである「文化をつなぐ」存在として、博物館が果たす役割とはなにか。京博にとって、その答えのひとつが「寄託」という制度にあると考えています。

「寄託」とは、美術品などの文化財を持つ所蔵者がその文化財を博物館に預けることをいいます。文化財の所有権は所蔵者であり、博物館に文化財を寄附して博物館の所蔵とする「寄贈」とはちがいます。所蔵者にとっては自分の文化財が博物館の収蔵庫など保存に適した環境で保管される利点があり、博物館にとっても名品を展示や研究に活用できる利点があります。個々の所蔵者の手許にあれば出合うことができません。「博物館」が「文化」をつなぐ場として機能するのは、「寄託」という制度があるおかげなのです。



重要文化財 東熨斗文様振袖 友禅史会



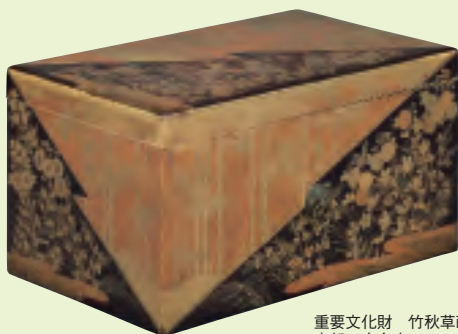
国宝 剣 無銘 附 黒漆宝剣拵
大阪・金剛寺



重要文化財 色絵蓮華香炉
伝野々村仁清作
京都・法金剛院



国宝 金銅藤原道長経筒
奈良県吉野郡天川村金峯山経塚出土
奈良・金峯神社



重要文化財 竹秋草詩絵文庫
京都・高台寺



国宝 五智如来坐像のうち大日如来
京都・安祥寺

平成知新館
名品ギャラリー

実は、京博はおよそ二十年前の明治三十年（一八九七）に京都を中心とする神社仏閣が所蔵する文化財を保護する目的で開館しました。当時は明治初期の廃仏毀釈の余波などで文化財が海外に流出するなど散逸の危機にありました。京博は社寺や個人から積極的に寄託を受け付け、現在では京博の収蔵庫には全収蔵品の半数近くに当たる六、二三五件の寄託品を数えるようになりました（平成三十年十二月末現在）。そのなかで、国宝は八六件、重要文化財は六二〇件にのぼります。地震や台風・豪雨など自然災害が多発する今日、良好な環境で名品を保管し、後世に引き継いでいくという寄託の意味は、薄らぐことはありません。

「京博寄託の名宝」展では、美術や工芸、考古など各分野の担当研究員が吟味を重ねて厳選した名品を展示いたします。そのため、展覧会といっても京博の外から作品を借りて展示することはありません。いわば、これ以上望むことができない最高の「平常展示」（名品ギャラリー）というわけです。一昨年の平成二十九年（二〇一七）秋に京博開館一二〇周年を記念して開催した特別展覧会「国宝」に勝るとも劣らない、美の「極致」をご鑑賞ください。

なお、大会最終日の九月七日（土）は本展を無料でご覧いただけます。この機会もぜひお見逃しなく。

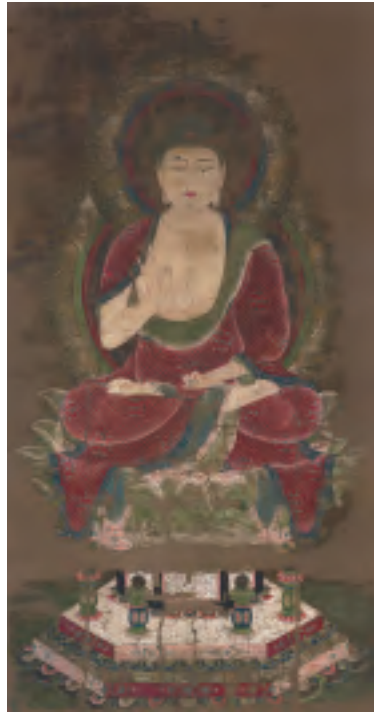
（呉孟晋）



国宝 伝源頼朝像 京都・神護寺



国宝 禅院額字并牌字のうち「首座」 京都・東福寺



国宝 釈迦如来像（赤釈迦） 京都・神護寺



重要文化財 蝦蟇鉄拐図のうち蝦蟇仙人 顔輝筆 京都・知恩寺



書筆 京都・真珠庵

3F-1 陶磁

【日本と東洋のやきもの】

7月9日（火）～8月12日（月・休）

【特別企画 京博寄託の名宝】

8月14日（水）～9月16日（月・祝）

3F-2 考古

【鳥取・兵庫の原始古代】

7月9日（火）～9月16日（月・祝）

【特別企画 京博寄託の名宝】

8月14日（水）～9月16日（月・祝）

2F-1 絵巻

【おとぎ草紙絵巻
— 福富草紙と鶴の草紙 —】

7月2日（火）～8月12日（月・休）

【特別企画 京博寄託の名宝】

8月14日（水）～9月16日（月・祝）

2F-2 仏画

【密教図像の美—暑苦しくない絵—】

7月2日（火）～8月12日（月・休）

【特別企画 京博寄託の名宝】

8月14日（水）～9月16日（月・祝）

2F-3 中世絵画

【描かれた動物たち】

7月2日（火）～8月12日（月・休）

【特別企画 京博寄託の名宝】

8月14日（水）～9月16日（月・祝）

2F-4 近世絵画

【没後220年長沢芦雪】

7月2日（火）～8月12日（月・休）

【特別企画 京博寄託の名宝】

8月14日（水）～9月16日（月・祝）

2F-5 中国絵画

【続・須磨コレクションにみる
齊白石の名品】

7月2日（火）～8月12日（月・休）

ICOM京都大会 いよいよ開催！

京都国立博物館副館長 栗原祐司

いよいよ九月一〜七日、三年に一回開催されるICOM（国際博物館会議）大会が京都で開催されます。日本初開催となるICOM京都大会の参加者は、国内外から約三千人以上を見込んでおり、国立京都国際会館をメイン会場に開催されます。オフサイト・ミーティングやエクスカーションでは、関西圏域全体に日帰り訪問し、東京や北海道、沖縄に行くポスト・カンファレンス・ツアーも企画されています。

大会テーマは、“Museums as Cultural Hubs: The Future of Tradition（文化をつなぐミュージアム―伝統を未来へ）”です。博物館は、その設置者や館種、形態、規模も様々ですが、それぞれの博物館が有機的に連携し、文化の結節点として各地域、さらには国内外とネットワークを構築することによってその存在価値を示し、社会的役割を果たしていくという趣旨が込められています。ICOM京都大会においては、このテーマに沿って、博物館が平和で文化的なよりよい社会を創出することを目的に、持続可能性や災害対策、博物館と地域開発等についても議論を行います。また、注目すべきは、世界的な博物館のスタンダードを定めたICOM規約の見直しが進んでおり、「Museum」の定義が改正される見込みです。さらに、これまであまり議論されてこなかったアジア美術やマンガについてのパネル・ディスカッションも予定されています。これらの全体会合や基調講演は日本語の同時通訳が付くため、英語の苦手な方でも安心して参加できます。最終日の閉会式及びクロージング・パーティは、京都国立博物館が会場となりますが、この日は無料で特別企画「京博寄託の名宝」展を御覧いただけます（観覧は午後五時まで）。詳細なプログラム等の情報は、ウェブサイトに（<http://icom-kyoto-2019.org/jp>）でご確認ください。皆様方のご参加をお待ちしております。



ICOM 京都大会メイン会場風景



ICOM 京都大会ポスター



重要文化財 雪汀水禽図屏風 右隻 狩野山雪筆

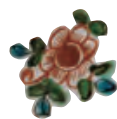


重要文化財 竹石白鶴図屏風 狩野正信

- 【特別企画 京博寄託の名宝】
8月14日（水）〜9月16日（月・祝）
1F-1 彫刻
- 【京都の仏像・神像】
7月2日（火）〜8月12日（月・休）
【特別企画 京博寄託の名宝】
8月14日（水）〜9月16日（月・祝）
1F-2 特別展示室
- 【特集展示 赤ってじつはどんな色？】
7月2日（火）〜8月12日（月・休）
【特別企画 京博寄託の名宝】
8月14日（水）〜9月16日（月・祝）
1F-3 書跡
- 【特集展示 新収品展】
7月2日（火）〜8月4日（日）
【特別企画 京博寄託の名宝】
8月14日（水）〜9月16日（月・祝）
1F-4 染織
- 【特集展示 新収品展】
7月2日（火）〜8月4日（日）
【特別企画 京博寄託の名宝】
8月14日（水）〜9月16日（月・祝）
1F-5 金工
- 【特集展示 新収品展】
7月2日（火）〜8月4日（日）
【特別企画 京博寄託の名宝】
8月14日（水）〜9月16日（月・祝）
1F-6 漆工
- 【特集展示 新収品展】
7月2日（火）〜8月4日（日）
【特別企画 京博寄託の名宝】
8月14日（水）〜9月16日（月・祝）
1F-7 漆工

※1F-3〜6は、8月6日（火）〜12日（月・休）休室。
※展示作品リストは、当館ウェブサイトをご覧ください。

特集展示



赤
じつは
どんな色？



7月2日(火)～8月12日(月・休)

〔平成知新館 1F-2〕

赤色は、わたしたちにとって身近な色のひとつです。むかしの人も赤でさまざまなものを飾っていました。しかし、そこには今では忘れられてしまった意味が込められていたのです。この展示では、むかしの美術品を通して、赤色に込められた人々の思いや、むかしの人の色のセンスを感じてみたいと思います。

夏休みのお子さまにも楽しんでいただける展示です。展示にあわせて、赤にまつわるクイズに挑戦するワークシートもご用意しています。身近な色をきっかけに作品を楽しく鑑賞してみよう。

(安部真里奈)



赤地唐獅子牡丹文様陣羽織
京都国立博物館



重要文化財 源氏物語図帖 野分 京都国立博物館

赤をまとう

赤は、さまざまな立場の人が身にまとった色です。貴族の女性は、季節や気分にあわせ、色とりどりの衣を重ねて楽しみました。伝統芸能では、赤色の入った衣装を色入りと呼び、若い女性役が着る特別なものとしています。武士は、赤色のものを身につけ、自分の存在をアピールしていたと考えられています。



埴輪 帽子をかぶった男子
京都国立博物館

赤にいのる

赤は、太陽や炎をイメージさせる、特別なパワーをもった色と考えられていたようです。古代のお墓に赤化粧の埴輪が立てられたのは、そのパワーを身につけるといいう意味があったのでしょうか。神さま用のお膳や仏さまに赤色を塗ったように、赤は人々の祈りとも深く関係している色なのです。

赤でいろいろ

土と炎から生み出される、赤色の美しいグラデーションの器。金色を背景に輝く紅葉の絵。赤の彩りにもさまざまな種類がありました。また、古くから中国の文化に憧れていた日本では、中国で作られた赤い美術品も人気を集め、これらを真似して作るようにもなりました。



五彩麒麟花鳥文盤 京都国立博物館

ギャラリー・トーク

お子さま向けのギャラリートークを開催します。研究員と一緒に話しながら作品を鑑賞しましょう。

開催日：8月4日(日)

開催時間：10時30分～11時
14時～14時30分

開催場所：平成知新館 1F-2

定員：各回先着 20名

対象：小学校高学年～中学生

講師：安部真里奈(当館研究員)

参加料：無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

参加方法：当日受付(開始時間の5分前までに、平成知新館グランドロビーにお集まりください)

齊白石の旧居を訪ねて

京都国立博物館主任研究員
呉 孟晋

展覧会で海外から美術作品を借りて来たり貸し出したりするときに、作品に付き添って移動する学芸員のことを「クーリエ (courier)」といいます。作品を載せた飛行機に同乗するのはもちろん、相手国での通関や開梱・点検・展示に立ち会います。仏語の原義である「飛脚」よろしく大切なお品を先方に手渡しするわけですから、なかなか気を抜くことができませんが、行程の変更で急に自由な時間がもてるときもあります。そんなクーリエの楽しみを実感できたのは、今年三月末に特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」展の作品返却で訪れた北京でした。

今回全面協力をいただいた北京画院での返却作業は無事に終わり、帰国までのほぼ一日、自由な時間ができました。そこで同画院が管理・公開している、齊白石（せいはくせき）（一八六四―一九五七）が晩年を過ごした旧居を訪ねてみることにしました。

故宮の北にあたる地安門（南にあるのは、かの有名な天安門です）からさらに北に歩き、運河を越えて少し東に歩いたら目的地の「雨児胡同」に着きました。「胡同（フートン）」とは北京特有の街並みのことで、四つの平屋が口の字型に配された「四合院」という伝統家屋が狭い路地を挟んで立ち並んでいます。

ちょうど、北京に春の到来を告げるハクモクレンが中庭に咲く美しい季節でした。白石の居所は正面の平屋にあり、見渡したところ三部屋しかありません。中央が応接間で、明代家具風の椅子と机そして白石の書画が掛けられています。向かって左側の部屋は画室で大きな机が一つ、右側は天蓋つきのベッドと筆筒があるのみで、とても質素な空間でした。

ようやく巨匠の生活の一端を垣間見ることができたのはうれしかったのですが、他方で柱や梁が朱で塗り直された「きれい」な旧居に、少し違和感を覚えたのもたしかです（写真）。



実は、ここは北京市内でも有数の観光地となった「南鑼鼓巷」の一角です。古くからの胡同の四合院は再開発によってショッピングやホテル、バーになり、旧市街地再生のモデルになった地区です。どこか映画のセットのような街並みを歩いて考えさせられるのは、保存か、開発か、それとも活用か。最近封切られたコメディ映画で、自宅の四合院を流行のアップレルブランドに買収された老人が従業員となって奮闘する「壊老頭」(The Bad Employee)（范宇監督、陳天陸主演、二〇一八年）もこれを地で行くようなストーリーでした。

もっとも、古びたものに「わびさび」を求めるのは日本人独自ののかもしれません。中国や台湾など中華圏の廟宇がいつもきれいなのは絶えず修復を重ねているからです。最近、京都では永観堂・禪林寺の阿弥陀堂が極楽浄土を表わす極彩色で修復され、奈良でも興福寺や薬師寺が伽藍の再建や復元につとめています。

歴史的建造物にいかに関活用してゆくのか。免震工事を予定する京博の明治古都館をはじめ建造物や風致地区の整備を考えるうえで、北京の事例も参考になるのではないか。ふだんのあわただしい北京出張では実現できなかった、ふとした散策がてらに思いました。

無料観覧日のお知らせ

ＩＣＯＭ京都大会の開催を記念し、９月７日(土)は無料観覧日といたします(ただし、夜間開館は実施しません)。この機会にぜひご来館ください。

土曜講座

- 7月 6日「重要文化財 太刀 銘 国吉(号 小夜左庵国吉)について
―鎌倉時代前期の山城鍛冶再考―」＊
京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦
- 7月13日「赤ってじつはどんな色？」＊＊
京都国立博物館研究員 安部真里奈
- 7月20日「鳥取・兵庫の原始・古代文化―山陰と山陽の交流点―」
京都国立博物館主任研究員 古谷 毅
- 8月 3日「海を渡った扇―橋本雅邦最後の大作―」＊
京都国立博物館研究員 福士雄也
- 8月24日「寄託制度と博物館」◆
京都国立博物館主任研究員 呉 孟晋
- 9月14日「モノから聞こえる物語―「唐鏡」はどこから来たのか―」◆
京都国立博物館教育室長 永島明子
- ＊…特集展示「新収品展」関連講座 ＊＊…特集展示「赤ってじつはどんな色？」関連講座
◆…ＩＣＯＭ 京都大会開催記念 特別企画「京博寄託の名宝」関連講座
※平成知新館 講堂にて、13 時 30 分～15 時に開催。定員 200 名、聴講無料（ただし当日の観覧券が必要）。
※当日 12 時より、平成知新館 1 階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

講座・イベント

《ＩＣＯＭ京都大会開催記念「明治古都館特別公開」》
ＩＣＯＭ京都大会開催期間中の 9 月 1 日(日)～9 月 7 日(土)、特別に明治古都館を開館
します。通常見ることができない明治古都館の内部を、この機会にぜひご覧ください。

《京都・らくご博物館【夏】～納涼寄席～ vol.53》
日 時：8 月 9 日(金) 18 時 30 分 開演（18 時開場）
会 場：平成知新館 講堂
出 演：桂團治郎 桂そうば 桂かい枝 <中入> 桂まん我 桂雀三郎
入場料：3100 円(キャンパスメンバーズは学生証提示により 2500 円)
※全席指定、平成知新館名品ギャラリー観覧券付
※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。
お電話／博物館事業推進係 075-531-7504 (月～金の10～12 時・13～17 時に受付 ＊祝日は除く)
WEB／<https://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【夏】申し込み画面

これからの展覧会

- ◆特別展 流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美
10月12日(土)～11月24日(日)
- ◆新春特集展示 子づくし―千支を愛でる―
2020 年1月2日(木)～2月2日(日)
- ◆特集展示 京都御所障壁画 紫宸殿
2020 年1月2日(木)～2月2日(日)
- ◆特集展示 神像と獅子・狛犬
2020 年1月2日(木)～3月22日(日)

国立博物館の展覧会

- 【東京国立博物館】
日中文化交流協定締結 40 周年記念 特別展「三国志」
7 月 9 日(火)～9 月 16 日(月・祝)
- 【奈良国立博物館】
特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」
7 月 13 日(土)～9 月 8 日(日)
- 【九州国立博物館】
特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」
7 月 13 日(土)～9 月 1 日(日)

◆ 名品ギャラリーの休止および部分開館予定 ◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止、または部分開館しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- [名品ギャラリー部分開館]
7 月 2 日(火)～7 月 7 日(日) 2F、1F (3F は閉室)
8 月 6 日(火)～8 月12 日(月・休) 3F、2F、1F・1・2 (1F・3～6 は閉室)
- [名品ギャラリー休止期間]
9 月 18 日(水)～12 月 22 日(日)
- [庭園のみ開館期間]
9 月 18 日(水)～10 月 10 日(木)

ご利用案内

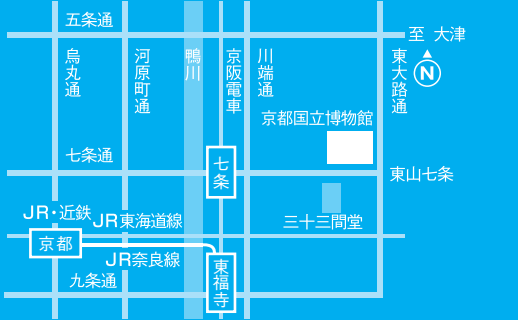
- [開館時間] 〈7 月 2 日～9 月 16 日〉 9:30～17:00
金・土曜日は 21:00 まで開館 (9 月 7 日を除く)
〈9 月 18 日～10 月 10 日〉 9:30～17:00
※入館は各開館の 30 分前まで
- [観覧料] 【名品ギャラリー】〈7 月 2 日～9 月 16 日〉
一般 520 円(410 円)
大学生 260 円(210 円)
＊() 内は団体 20 名以上。
＊高校生以下および満 18 歳未満、満 70 歳以上無料、障害者とその介護者 1 名は無料 (要証明)。
＊キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。
- 【庭園のみ開館期間】〈9 月 18 日～10 月 10 日〉
一般 260 円(210 円) (庭園ガイド冊子付き)
＊() 内は団体 20 名以上。
＊大学生以下、満 70 歳以上、障害者とその介護者 1 名は無料 (要証明)。

- [休館日] 月曜日(9 月 2 日を除く)。月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)
10 月 11 日(金)

アクセス

JR＝京都駅下車、市バス D2 のりばより 206・208 号系統、D1 のりばより 100 号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩 1 分
近鉄電車＝丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩 7 分
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩 7 分
阪急電車＝河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩 7 分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

＊「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角 2 封筒は 120 円、長 3 封筒は 92 円)切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒 605-0931 京都市東山区茶屋町 527
TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)
ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2019 年 7 月 1 日 デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館 印刷 ニューカラー写真印刷株式会社